職業実践専門課程等の基本情報について

専門学校東京ホスピタ アカデミー 設置者名 学校法人21世紀アカ・			忍可年月日	校	長名			所在地							
設置者名	ヌリティ・	121115/	4年10月1	日 千世	製		62-0843 百亩郏新房区市公田	-0843 :都新宿区市谷田町3−21							
							3-3235-5713								
学校法人21世紀アカ・		設立記	忍可年月日	月日 代表者名 所在地 所在地 〒 101-0062											
	デメイア	昭和4	2年1月12	日 田坂	広志	(住所) 身	京都千代田区神田	日駿河台2-11							
分野	1	忍定課程名		認定学科名	Z		3-3292-0662 士認定年度	高度専門士認定	2. 年度	職業宝建書	阿課程認定年度				
商業実務		光専門課程		エアライン学			1(2009)年度				7(2015)年度				
			ン業界がえ	求める人財の育成	117	1 190.2	1(2003)十段			1 190,2	/(2010)干及				
学科の目的 学	₽科教育理 Dグローバ	₿念を実現する ルなマナーや	るために以 [、] ロミュニケ	下の目標を掲げ、実 ーション・表現力を養 業で専門的能力の向	きう。	専門能力をもっ	た人材を育成するこ	とを目的とする。							
学科の特徴(取得 (デ 可能な資格、中退 サ	資格・検定 ナービス接	≧等) 遇検定、ビジ				き、TOEIC、イ:	ンフィニ検定、マナー:	プロトコール検定							
修業年限	中退率)6.		了に必要な 単位数	総授業時数又は総	講	義	演習	実習	実	験	実技				
2	昼間	※単位時間、単 かに記入		1,920 単位時間	2,016	単位時間	0 単位時間	544 単位時間		単位時間	0 単位時間				
生徒総定員	生徒実		留学牛数	単位 (生徒実員の内数)(B)	留学生害	単位 削合(B/A)	単位	単位		単位	単位				
80 人	66		H 1 T M	10 人	15										
	■卒業者数	数 (C)	:	14		人									
		望者数(D)	:	14		\									
	■就職者劉 ■地元就即	^{釵(E)} 職者数(F)	- :	14 12											
	■就職率	(E/D)		100		%									
	就職者□	こ占める地元	就職者の害	引合 (F/E) 86		06									
	■卒業者に	こ占める就職者	者の割合(I			%									
				100		%									
	■進学者類 ■その他	奴		0		人									
	- (0/16														
	(令和			関する令和4年5月	1日時点の作	青報)									
		哉先、業界等	i												
	令和6年度														
I	エアライン	業界													
	■民間の■	評価機関等が	いら笹=老	評価:			無								
		・ 個1成(3) サバ 、例えば以下に					7115								
学校評価	-	en berna be			are		評	価結果を掲載した							
	ī	評価団体:			受審年月:			ームページURL							
当該学科の				· · · · · · · · · · · · · · · · · · ·			· · · · · · · · · · · · · · · · · · ·				-				
	ttps://wv	ww.tit.ac.jp/d	lepartmen	t/airline/											
URL															
	(A:単位	時間による算	定)												
		総授業時数									l				
		う	ち企業等と	本株した中野 中国					2, 560	単位時間					
		ć		連携した実験・実習	習・実技の指	受業時数				単位時間 単位時間					
			ち企業等と	連携した演習の授業		受業時数			352						
				連携した演習の授業		受業時数			352 0	単位時間					
			ち必修授業	連携した演習の授業 時数	業時数		5の授業時数		352 0 1, 920	単位時間 単位時間 単位時間					
			ち必修授業	連携した演習の授事 時数 ち企業等と連携した	業時数 こ必修の実験	倹・実習・実技	女の授業時数		352 0 1, 920 352	単位時間 単位時間 単位時間 単位時間					
		ð	ち必修授業	連携した演習の授業時数 ち企業等と連携した ち企業等と連携した	業時数 こ必修の実験 こ必修の演習	検・実習・実技 習の授業時数	もの授業時数		352 0 1,920 352 0	単位時間 単位時間 単位時間 単位時間 単位時間					
企業等と連携した		ð	ち必修授業	連携した演習の授事 時数 ち企業等と連携した	業時数 こ必修の実験 こ必修の演習	検・実習・実技 習の授業時数	ちの授業時数		352 0 1,920 352 0	単位時間 単位時間 単位時間 単位時間					
実習等の実施状況		う	ち必修授業 う う うち企業等	連携した演習の授業時数 ち企業等と連携した ち企業等と連携した	業時数 こ必修の実験 こ必修の演習	検・実習・実技 習の授業時数	支の授業時数		352 0 1,920 352 0	単位時間 単位時間 単位時間 単位時間 単位時間					
実習等の実施状況		う (数による算定	ち必修授業 う う うち企業等	連携した演習の授業時数 ち企業等と連携した ち企業等と連携した	業時数 こ必修の実験 こ必修の演習	検・実習・実技 習の授業時数	女の授業時数		352 0 1, 920 352 0 128	単位時間 単位時間 単位時間 単位時間 単位時間					
実習等の実施状況 (A、Bいずれか		数による算定総授業時数	ち必修授業う	連携した演習の授乳 時数 ち企業等と連携した ち企業等と連携した ちと連携したインター	業時数 ≃必修の実態 ≃必修の演習	食・実習・実技 習の授業時数 の授業時数)	ち の授業時数		352 0 1, 920 352 0 128	単位時間 単位時間 単位時間 単位時間 単位時間 単位時間					
実習等の実施状況 (A、Bいずれか		数による算定総授業時数	ち必修授業う	連携した演習の授業時数 ち企業等と連携した ち企業等と連携した	業時数 ≃必修の実態 ≃必修の演習	食・実習・実技 習の授業時数 の授業時数)	ちの授業時数		352 0 1, 920 352 0 128	単位時間 単位時間 単位時間 単位時間 単位時間					
実習等の実施状況 (A、Bいずれか		う (数による算定 総授業時数 う	ち必修授業 う うち企業等 か ち企業等	連携した演習の授乳 時数 ち企業等と連携した ち企業等と連携した ちと連携したインター	業時数 二必修の実態 こ必修の演習 ことがをの演習 ことがをの演習 ことが の演習 ことが の演習 ことが の演習 ことが の演習	食・実習・実技 習の授業時数 の授業時数)	5の授業時数		352 0 1, 920 352 0 128	単位時間 単位時間 単位時間 単位時間 単位時間 単位時間					
実習等の実施状況 (A、Bいずれか		数による算定総授業時数うう	ち必修授業 う うち企業等 か ち企業等	連携した演習の授乳 時数 ち企業等と連携した ち企業等と連携した と連携したインター 連携した実験・実習 連携した演習の授乳	業時数 二必修の実態 こ必修の演習 ことがをの演習 ことがをの演習 ことが の演習 ことが の演習 ことが の演習 ことが の演習	食・実習・実技 習の授業時数 の授業時数)	支の授業時数		352 0 1,920 352 0 128	単位時間 単位時間 単位時間 単位時間 単位時間 単位時間 単位時間 単位時間					
実習等の実施状況 (A、Bいずれか		数による算定総授業時数うう	ち必修授業ううち企業等となる企業等とち必修授業	連携した演習の授乳 時数 ち企業等と連携した ち企業等と連携した と連携したインター 連携した実験・実習 連携した演習の授乳	業時数 □必修の実態 □必修の演習 □ンシップ □・実技の お	食・実習・実法 習の授業時数 D授業時数) 受業時数			352 0 1,920 352 0 128	単位時間 単位時間 単位時間 単位時間 単位時間 単位時間 単位時間 単位時間					
実習等の実施状況 (A、Bいずれか		数による算定総授業時数うう	ち必修授業 ううち企業等 とと な必修授業 ううち企業等と とうち必修授業 う	連携した演習の授乳 時数 ち企業等と連携した ち企業等と連携した まと連携したインター 連携した実験・実習 連携した演習の授乳	業時数 <必修の実 <p>と必修の実 で と必修の実 で の で で で で で の で で で の で で で の で で で の の <</p>	食・実習・実法 習の授業時数 D授業時数) 受業時数 受業時数			352 0 1,920 352 0 128	単位時間 単位時間 単位時間 単位時間 単位時間 単位時間 単位時間 単位時間					
実習等の実施状況 (A、Bいずれか		数による算定総授業時数ううう	ち必修授業 ううち企業等 ご) ち企業等と ちら必修授業 う	連携した演習の授乳 時数 ち企業等と連携した ち企業等と連携した と連携したインター 連携した実験・実習 連携した演習の授乳 時数 ち企業等と連携した な企業等と連携した な企業等と連携した	集時数 と必修の実験 と必修の実験 と必修の実験 である。 と必修の実験 である。 との修の実験 との修の実験 と必修の実験 と必修の実験	食・実習・実法 習の授業時数) 授業時数) 受業時数 ・実帯数 ・実習・実法			352 0 1,920 352 0 128	単位時間 単位時間 単位時間 単位時間 単位時間 単位時間 単位時間 単位時間					
実習等の実施状況 (A、Bいずれか		数による算定総授業時数ううう	ち必修授業 ううち企業等 ご) ち企業等と ちら必修授業 う	連携した演習の授乳 時数 ち企業等と連携した ち企業等と連携した と連携したインター 連携した実験・実習 連携した演習の授乳 時数 ち企業等と連携した	集時数 と必修の実験 と必修の実験 と必修の実験 である。 と必修の実験 である。 との修の実験 との修の実験 と必修の実験 と必修の実験	食・実習・実法 習の授業時数) 授業時数) 受業時数 ・実帯数 ・実習・実法			352 0 1,920 352 0 128	単位時間 単位時間 単位時間 単位時間 単位時間 単位時間 単位時間 単位時間					
実習等の実施状況 (A、Bいずれか		数による算定総授業時数ううう	ち必修授業 ううち企業等 ご) ち企業等と ちら必修授業 う	連携した演習の授乳 時数 ち企業等と連携した ち企業等と連携した と連携したインター 連携した実験・実習 連携した演習の授乳 時数 ち企業等と連携した な企業等と連携した な企業等と連携した	集時数 と必修の実験 と必修の実験 と必修の実験 である。 と必修の実験 である。 との修の実験 との修の実験 と必修の実験 と必修の実験	食・実習・実法 習の授業時数) 授業時数) 受業時数 ・実帯数 ・実習・実法			352 0 1,920 352 0 128	単位時間 単位時間 単位時間 単位時間 単位時間 単位時間 単位時間 単位時間					
実習等の実施状況 (A、Bいずれか		数による算定総授業時数ううう	ち必修授業 ううち企業等 さか ち企業等と ち必修授業 ううち企業等	連携した演習の授乳 時数 ち企業等と連携した ち企業等と連携した をと連携したインター 連携した実験・実習 連携した演習の授乳 等時数 ち企業等と連携した な企業等と連携した な企業等と連携した など連携したインター	楽時数 と必修の実験 と必修の実験 と必修の実験 とと必修の演習 ・実技の打 といきの表 といる。 といきのでは、 というのでは、 というのでは、	食・実習・実法 習の授業時数) 授業時数) 受業時数 ・実帯数 ・実習・実法			352 0 1,920 352 0 128	単位時間 単位時間 単位時間 単位時間 単位時間 単位時間 単位時間 単位時間					
実習等の実施状況 (A、Bいずれか		う (数による算定 総授業時数 う う う う う う で で で で で で で で で で で で で	ち必修授業 ううち企業等 うち企業等等とと業 ううち企業等等とと業 うちのる教	連携した演習の授乳 時数 ち企業等と連携した ち企業等と連携した まと連携したインター 連携した実験・実習 連携した演習の授乳 連携した演習の授乳 を主要等と連携した な企業等と連携した ち企業等と連携した ちと連携したインター	集時数 と必修の実験 と必修の実験 でと必修の実験 でと必修の実験 でと必修の実験 でと必修の実験 でと必修の実験 でと必修の実験 でと必修の実験 でと必修の実験 でといる。 では、いいの	食・実習・実注 習の授業時数 の授業時数 受業時数 受業時数 食・実習・実注 習の授業時数 の授業時数	女の授業時数	(第12)	352 0 1,920 352 0 128	単位時間 単位時間 単位時間 単位時間 単位時間 単位 単位 単位 単位 単位 単位					
実習等の実施状況 (A、Bいずれか		数による第二章 を発表を表しています。 また かんしょう かんしょ かんしょう かんしょく かんしん かんしょく かんしょく かんしょく かんしん かんしん かんしん かんしん かんしん かんしん かんしん かんし	ち必修榜授業 ううち企業等 をと 業等 をと 業 得利に影ったのの名年限 いっぱん かんしゅう しゅう かんしゅう かんしゅん かんしん かんし	連携した演習の授系 時数 ち企業等と連携した ち企業等と連携した と連携したインター 連携した実験・実習 連携した演習の授系 ち企業等と連携した ち企業等と連携した な企業等と連携した	集時数 と必修の実験 と必修の実験 でと必修の実験 でと必修の実験 でと必修の実験 でと必修の実験 でと必修の実験 でと必修の実験 でと必修の実験 でと必修の実験 でといる。 では、いいの	食・実習・実注 習の授業時数 の授業時数 受業時数 受業時数 食・実習・実注 習の授業時数 の授業時数		第1号)	352 0 1,920 352 0 128	単位時間 単位時間 単位時間 単位時間 単位時間 単位時間 単位時間 単位時間					
実習等の実施状況 (A、Bいずれか		う (数による算定 総授業時数 う う う う う う で で で で で で で で で で で で で	ち必修榜授業 ううち企業等 をと 業等 をと 業 得利に影ったのの名年限 いっぱん かんしゅう しゅう かんしゅう かんしゅん かんしん かんし	連携した演習の授乳 時数 ち企業等と連携した ち企業等と連携した まと連携したインター 連携した実験・実習 連携した演習の授乳 連携した演習の授乳 を主要等と連携した な企業等と連携した ち企業等と連携した ちと連携したインター	集時数 と必修の実験 と必修の実験 でと必修の実験 でと必修の実験 でと必修の実験 でと必修の実験 でと必修の実験 でと必修の実験 でと必修の実験 でと必修の実験 でといる。 では、いいの	食・実習・実注 習の授業時数 の授業時数 受業時数 受業時数 食・実習・実注 習の授業時数 の授業時数	女の授業時数	第1号)	352 0 1,920 352 0 128	単位時間 単位時間 単位時間 単位時間 単位時間 単位 単位 単位 単位 単位 単位					
実習等の実施状況 (A、Bいずれか		数による第二章 を発表を表しています。 また かんしょう かんしょ かんしょう かんしょく かんしん かんしょく かんしょく かんしょく かんしん かんしん かんしん かんしん かんしん かんしん かんしん かんし	ち必修授業 うち企業等等とと業等をと必修を必要を必修を表す。 うち企業等等とと業う。 うち企業のものる年ととのの名類にある。	連携した演習の授乳時数 ち企業等と連携した ち企業等と連携した ち企業等と連携した と連携したインター 連携した実験・実習 連携した演習の授乳 時数 ち企業等と連携した ち企業等と連携した と連携したインター	集時数 と必修の実験 と必修の実験 でと必修の実験 でと必修の実験 でと必修の実験 でと必修の実験 でと必修の実験 でと必修の実験 でと必修の実験 でと必修の実験 でといる。 では、いいの	食・実習・実技 習の授業時数) D授業時数) 受業時数 食・実習・実技 留の授業時数) が要素的数 の授業時数) (専修学校	女の授業時数		352 0 1, 920 352 0 128	単位時間 単位時間 単位時間 単位時間 単位時間 単位時間 単位時間 単位 単位 単位 単単位 単単位 単位 単位 単位 単位 単位 単位 単位 単					
実習等の実施状況(A、Bいずれかに記入)		数による算定 総授業時数 ううう うう うう う う う う う う で の 程 の を り と で で 門 に て 門 に て で に り に り に り に り に り に り に り に り に り に	ち必修授業 うち企業等 うち企業等をと業等を企業を修行。 うちな企業等をとまり、 うちな企業等をと業り、 うちな企業等をとまり、 うちな企業をといる。 うちなでは、 うちなでも、 もなでも、 もなでも、 もなでも、 もなでも、 もなでもなでもなでもを もなでもなでもなでもなでもなでもなでもなでもなでもなでもなでもなでもなでもなでも	連携した演習の授系 時数 ち企業等と連携した ち企業等と連携した と連携したインター 連携した実験・実習 連携した演習の授系 ち企業等と連携した な企業等と連携した な企業等と連携した な企業等と連携した な企業等と連携した な企業等と連携した な企業等と連携した など を変換した。学れ はな事した者であって また ので、学れ はな事した者であって また。	集時数 と必修の実験 と必修の実験 でと必修の実験 でと必修の実験 でと必修の実験 でと必修の実験 でと必修の実験 でと必修の実験 でと必修の実験 でと必修の実験 でといる。 では、いいの	食・実習・実技 習の授業時数) D授業時数) 受業時数 食・実習・実技 習の授業時数) (専修学校	支の授業時数 設置基準第41条第1項 設置基準第41条第1項	第2号)	352 0 1,920 352 0 128	単位時間 単位時間 単位時間 単位時間 単位時間 単位時間 単位時間 単位時間					
実習等の実施状況(A、Bいずれかに記入)		数による算定 総授業時数 ううう うう うう う う う う う う う う で で の を の を り と の で り と り と り と り と り と り と り と り と り と り	ち必修授業 ううち企業等 うち企業等をと を企業等をと かった企業等をと の名業等をと のる年とのののも限なった。 ののもでは、 の。 の。 の。 の。 の。 の。 の。 の。 の。 の。 の。 の。 の。	連携した演習の授系 時数 ち企業等と連携した ち企業等と連携した と連携したインター 連携した演習の授系 連携した演習の授系 ち企業等と連携した ち企業等と連携した ち企業等と連携した ち企業等と連携した ち企業等と連携した もので、学校 であって であって を を を を を を を を を を を を を を を を を を を	集時数 と必修の実験 と必修の実験 でと必修の実験 でと必修の実験 でと必修の実験 でと必修の実験 でと必修の実験 でと必修の実験 でと必修の実験 でと必修の実験 でといる。 では、いいの	食・実習・実技 習の授業時数 D授業時数 受業時数 食・実習・実技 習の授業時数 D授業時数) (専修学杉 (専修学杉	なの授業時数 設置基準第41条第1項 設置基準第41条第1項 設置基準第41条第1項	第2号)	352 0 1,920 352 0 128	単位時間 単位時間 単位時間 単位時間 単位時間 単位時間 単位時間 単位時間					
実習等の実施状況(A、Bいずれかに記入)		数による算定 総授業時数 ううう うう うう う う う う う う で の 程 の を り と で で 門 に て 門 に て で に り に り に り に り に り に り に り に り に り に	ち必修授業 ううち企業等 うち企業等をと を企業等をと かった企業等をと の名業等をと のる年とのののも限なった。 ののもでは、 の。 の。 の。 の。 の。 の。 の。 の。 の。 の。 の。 の。 の。	連携した演習の授系 時数 ち企業等と連携した ち企業等と連携した と連携したインター 連携した演習の授系 連携した演習の授系 ち企業等と連携した ち企業等と連携した ち企業等と連携した ち企業等と連携した ち企業等と連携した もので、学校 であって であって を を を を を を を を を を を を を を を を を を を	集時数 と必修の実験 と必修の実験 でと必修の実験 でと必修の実験 でと必修の実験 でと必修の実験 でと必修の実験 でと必修の実験 でと必修の実験 でと必修の実験 でといる。 では、いいの	食・実習・実技 習の授業時数 D授業時数 受業時数 食・実習・実技 習の授業時数 D授業時数) (専修学杉 (専修学杉	支の授業時数 設置基準第41条第1項 設置基準第41条第1項	第2号)	352 0 1,920 352 0 128	単位時間 単位時間 単位時間 単位時間 単位時間 単位時間 単位時間 単位時間					
実習等の実施状況 (A、Bいずれか に記入) 教員の属性(専任 教員について記		数による算定 総授業時数 ううう うう うう う う う う う う う う で で の を の を り と の で り と り と り と り と り と り と り と り と り と り	ち必修授業 ううち企業等 うち企業等をと を企業等をと かった企業等をと の名業等をと のる年とのののも限なった。 ののもでは、 の。 の。 の。 の。 の。 の。 の。 の。 の。 の。 の。 の。 の。	連携した演習の授系 時数 ち企業等と連携した ち企業等と連携した と連携したインター 連携した演習の授系 連携した演習の授系 ち企業等と連携した ち企業等と連携した ち企業等と連携した ち企業等と連携した ち企業等と連携した もので、学校 であって であって を を を を を を を を を を を を を を を を を を を	集時数 と必修の実験 と必修の実験 でと必修の実験 でと必修の実験 でと必修の実験 でと必修の実験 でと必修の実験 でと必修の実験 でと必修の実験 でと必修の実験 でといる。 では、いいの	食・実習・実技 留の授業時数 D授業時数 受業時数 (事修学校 (事修学校 (事修学校	なの授業時数 設置基準第41条第1項 設置基準第41条第1項 設置基準第41条第1項	第2号) 第3号) 第4号)	352 0 1,920 352 0 128	単位時間 単位時間 単位時間 単位時間 単位時間 単位時間 単位時間 単位時間					
実習等の実施状況 (A、Bいずれか に記入) 教員の属性(専任 教員について記		数による算定 総授業時数 ううう ううででは、 ででは、 ででは、 ででは、 ででは、 ででは、 ででは	ち必修授業 ううち企業等 うち企業等をと を企業等をと かった企業等をと の名業等をと のる年とのののも限なった。 ののもでは、 の。 の。 の。 の。 の。 の。 の。 の。 の。 の。 の。 の。 の。	連携した演習の授系 時数 ち企業等と連携した ち企業等と連携した と連携したインター 連携した演習の授系 連携した演習の授系 ち企業等と連携した ち企業等と連携した ち企業等と連携した ち企業等と連携した ち企業等と連携した もので、学校 であって であって を を を を を を を を を を を を を を を を を を を	集時数 と必修の実験 と必修の実験 でと必修の実験 でと必修の実験 でと必修の実験 でと必修の実験 でと必修の実験 でと必修の実験 でと必修の実験 でと必修の実験 でといる。 では、いいの	食・実習・実技 留の授業時数 D授業時数 受業時数 (事修学校 (事修学校 (事修学校	支の授業時数 設置基準第41条第1項 設置基準第41条第1項 設置基準第41条第1項 設置基準第41条第1項	第2号) 第3号) 第4号)	352 0 1,920 352 0 128	単位時間 単位時間 単位時間 単位時間 単位時間 単位時間 単位時間 単位時間					
実習等の実施状況 (A、Bいずれか に記入) 教員の属性(専任 教員について記		数による算定 総授業時数 ううう ででででででででは、できる。 のででは、できる。 のででは、できる。 のででは、できる。 のででは、できる。 のででは、できる。 のででは、できる。 のででは、できる。 のででは、できる。 のででは、できる。 のででは、できる。 のででは、できる。 のででは、できる。 のででは、できる。 のででは、できる。 のできる。 のでは、できる。 のできる。 のできる。 のできる。 のできる。 のできる。 のできる。 のできる。 のできる。 のできる。 のできる。 のできる。 のできる。 のできる。 のできる。 のでも。 のできる。 のできる。 のでも。 のでも。 のでも。 のでも。 のでも。 のでも。 のでも。 のでも	ち必修授業 ううち企業等 うち企業等をと を企業等をと かった企業等をと の名業等をと のる年とのののも限なった。 ののもでは、 の。 の。 の。 の。 の。 の。 の。 の。 の。 の。 の。 の。 の。	連携した演習の授系 時数 ち企業等と連携した ち企業等と連携した と連携したインター 連携した演習の授系 連携した演習の授系 ち企業等と連携した ち企業等と連携した ち企業等と連携した ち企業等と連携した ち企業等と連携した もので、学校 であって であって を を を を を を を を を を を を を を を を を を を	集時数 と必修の実験 と必修の実験 でと必修の実験 でと必修の実験 でと必修の実験 でと必修の実験 でと必修の実験 でと必修の実験 でと必修の実験 でと必修の実験 でといる。 では、いいの	食・実習・実技 留の授業時数 D授業時数 受業時数 (事修学校 (事修学校 (事修学校	支の授業時数 設置基準第41条第1項 設置基準第41条第1項 設置基準第41条第1項 設置基準第41条第1項	第2号) 第3号) 第4号)	352 0 1,920 352 0 128	単位時間 単位時間 単位時間 単位時間 単位時間 単位時間 単位時間 単位時間					
実習等の実施状況 (A、Bいずれか に記入) 教員の属性(専任 教員について記		数による 算定 (で表して、) (では、) (では、	ち必修授業 うち企業等等とと業ううのる年と位数位 のの3年と位数のは東京により、 うちの3年との位数では、「一直の10年の10年の10年の10年の10年の10年の10年の10年の10年の10年	連携した演習の授乳時数 ち企業等と連携した かから なまい ちかん 実 等と連携した かい まま かい まま きょう は まま かい まま まま まま かい まま	集時数 こ必修の実際では、 ことが修のの実際である。 ことが修のの実際である。 ことが修のの実際である。 ことを多り、これでは、 このできます。 このできまするできます。 このできます。 このできます。 このできま	食・実習・実法 習の授業時数) 受業時数 受業時数 会・実習・実数 の授業時数) (専修学材 (専修学材 (専修学材	たの授業時数 設置基準第41条第1項 設置基準第41条第1項 設置基準第41条第1項 設置基準第41条第1項 設置基準第41条第1項	第2号) 第3号) 第4号) 第5号)	352 0 1,920 352 0 128	単位時間 単位時間 単位時間 単位時間 単位時間 単位時間 単位時間 単位時間					
実習等の実施状況 (A、Bいずれか に記入) 教員の属性(専任 教員について記		数による第定 総授業時数 ううう ででででででは、できます。 でででは、できます。 でででは、できます。 でででは、できます。 でででは、できます。 でででは、できます。 でででは、できます。 ででできます。 ででできます。 できます。 できまする。 できます。 できます。 できます。 できます。 できます。 できます。 できます。 できます。 できます。 できます。 できます。 できます。 できます。 できます。 できます。 できる。 できる。 できる。 できる。 できる。 できる。 できる。 できる	ち必修修授授 うう か 企 業等 等 授 を と 業 等等 授 を と 業 等等 投 を 企 の の 名 年 と 位 教 位 又 ち ち ち ち ち ち ち ち ち ち ち ち ち ち ち ち ち ち	連携した演習の授乳時数 ち企業等と連携した 方企業等と連携した 方と連携した 方と連携した 大と連携した 大きと連携した 演習の授乳時数 ち企業等と連携した 方企業等と連携した 方企業等と連携した ちと連携した できる企業等と は一世 からと 連携 した 後 あ あ 別 に	集時数 こ必修の実際では、 ことが修のの実際である。 ことが修のの実際である。 ことが修のの実際である。 ことを多り、これでは、 このできます。 このできまするできます。 このできます。 このできます。 このできま	食・実習・実法 習の授業時数) 受業時数 受業時数 会・実習・実数 の授業時数) (専修学材 (専修学材 (専修学材	支の授業時数 設置基準第41条第1項 設置基準第41条第1項 設置基準第41条第1項 設置基準第41条第1項	第2号) 第3号) 第4号) 第5号)	352 0 1,920 352 0 128	単位時間 単位時間 単位時間 単位時間 単位時間 単位時間 単位時間 単位時間					
実習等の実施状況 (A、Bいずれか に記入) 教員の属性(専任 教員について記		数による第定 総授業時数 ううう ででででででは、できます。 でででは、できます。 でででは、できます。 でででは、できます。 でででは、できます。 でででは、できます。 でででは、できます。 ででできます。 ででできます。 できます。 できまする。 できます。 できます。 できます。 できます。 できます。 できます。 できます。 できます。 できます。 できます。 できます。 できます。 できます。 できます。 できます。 できる。 できる。 できる。 できる。 できる。 できる。 できる。 できる	ち必修修授授 うう か 企 業等 等 授 を と 業 等等 授 を と 業 等等 投 を 企 の の 名 年 と 位 教 位 又 ち ち ち ち ち ち ち ち ち ち ち ち ち ち ち ち ち ち	連携した演習の授乳時数 ち企業等と連携した かから なまい ちかん 実 等と連携した かい まま かい まま きょう は まま かい まま まま まま かい まま	集時数 こ必修の実際では、 ことが修のの実際である。 ことが修のの実際である。 ことが修のの実際である。 ことを多り、これでは、 このでは、 このでは	食・実習・実法 習の授業時数) 受業時数 受業時数 会・実習・実数 の授業時数) (専修学材 (専修学材 (専修学材	たの授業時数 設置基準第41条第1項 設置基準第41条第1項 設置基準第41条第1項 設置基準第41条第1項 設置基準第41条第1項	第2号) 第3号) 第4号) 第5号)	352 0 1,920 352 0 128	単位時間 単位時間 単位時間 単位時間 単位 世 単位 世 単位 世 単 単 単 単 単 単 単 単 単 単 単 単					

- 1. 「専攻分野に関する企業、団体等(以下「企業等」という。)との連携体制を確保して、授業科目の開設その他の教育課程の編成を行っていること。」関係
- (1)教育課程の編成(授業科目の開設や授業内容・方法の改善・工夫等を含む。)における企業等との連携に関する基本方針

エアライン業界で基本的資質として必要とされるものは「おもてなし」の心であり、この本質について理解を深めることが、エアライン業界を目指す当校の学生にとって必須の要件であると考える。 学科では、チームワークや接客サービススキルにこの「おもてなし」を具体的に活かしていくため、日本マナー・プロトコール協会と連携し、授業内容の構築、実施により、その理論と実践を学んでいる。さらに、習得の度合いを測るために「マナー・プロトコール検定」を実施しているが、これはエアライン業界では社員教育や自己啓発の手段として必須のものである。

(2)教育課程編成委員会等の位置付け

※教育課程の編成に関する意思決定の過程を明記

教育課程編成委員会は、学校長の下部、教員組織である学務部の上位に位置し、当校が実践的かつ専門的な職業教育を実施するために企業と連携し、必要な情報の把握・分析を行い、授業科目の開設や授業内容・方法の改善・工夫を含む教育課程の編成に活かすことを目的として設置された組織である。 具体的には年度2回の開催を原則とし、教育課程編成委員会をもって学科カリキュラムを決定していく。1回目は前年度のカリキュラムの検証をおこない、よりよいカリキュラムを構成するための改善案を検討し、必要に応じて実施措置をとる。2回目は変更したカリキュラムの経過をみながらさらに検討を加え、改善措置ならびに次年度カリキュラムの確認を行うものとする。

(3)教育課程編成委員会等の全委員の名簿

会和7年8日31日現在

			131日5七
名 前	所 属	任期	種別
木村 克也		令和6年4月1日~令和8年3月 31日(2年)	1
宮下 哲	スカイマーク株式会社	令和6年4月1日~令和8年3月 31日(2年)	3
折小野 正一		令和6年4月1日~令和8年3月 31日(2年)	3
永井 竜介		令和6年4月1日~令和8年3月 31日(2年)	_
墓目 庄一	果泉ホスピダリテイ・アカテミー	令和6年4月1日~令和8年3月 31日(2年)	_
大野 縁		令和6年4月1日~令和8年3月 31日(2年)	_

※委員の種別の欄には、企業等委員の場合には、委員の種別のうち以下の①~③のいずれに該当するか記載するこ 上。

- (当該学校の教職員が学校側の委員として参画する場合、種別の欄は「一」を記載してください。)
 - ①業界全体の動向や地域の産業振興に関する知見を有する業界団体、職能団体、 地方公共団体等の役職員(1企業や関係施設の役職員は該当しません。)
 - ②学会や学術機関等の有識者
 - ③実務に関する知識、技術、技能について知見を有する企業や関係施設の役職員
- (4)教育課程編成委員会等の年間開催数及び開催時期

(年間の開催数及び開催時期)

年2回 (9月、3月)

(開催日時(実績))

第1回 令和6年10月3日 15:00~17:00 第2回 令和7年3月27日 15:00~17:00

(5)教育課程の編成への教育課程編成委員会等の意見の活用状況

※カリキュラムの改善案や今後の検討課題等を具体的に明記。

編成委員より訪日外国人の増加により更にグローバルな国際マナーや言語の重要性や、社会人として意識を高める企業 と連携した授業の必要性を指摘された。それを受け令和元年のカリキュラムより以下の改善を実施する。

- ①「航空業界研究」授業を「航空サービス」を中心とした企業と連携した授業に改善し、より実践的な実習授業を実施する。
- ②異文化の知識や理解を深めるために「マナープロトコール」授業を細分化し国際マナーをカリキュラムに追加する。
- ③実習授業で得たスキルで業界に向け新しい提案をするため「航空サービス実習」授業の充実を図る。

2. 「企業等と連携して、実習、実技、実験又は演習(以下「実習・演習等」という。)の授業を行っていること。」関係

(1)実習・演習等における企業等との連携に関する基本方針

エアライン学科の教育理念「エアライン業界が求める人財の育成」を実現するため、企業と連携した実践的な実習授業を実施することにより、実践的かつ専門的能力をもった人材を育成することを基本的方針とする。具体的には、企業もしくは団体より実習における教育内容に関連する指導方法、評価方法、教材作り等に対する助言、資料等の提供を受け、当該科目を担当する教員と連携団体の講師がこれに検討を加え、実践的な授業の改善及び工夫を行っていくものとする。また各期終了時には、生徒の学修成果の評価をふまえ、更なる改善・工夫の検討を加えるものとする。

(2)実習・演習等における企業等との連携内容

※授業内容や方法、実習・演習等の実施、及び生徒の学修成果の評価における連携内容を明記

エアライン学科では、多様化する社会的ニーズに応え得る幅広い業務知識および実務技術を備えた人財の育成を目的として、グランドハンドリング会社の現役社員を講師として招聘し業界が求める専門性および実務能力の向上を図っている。スカイマーク、JALグランドサービス、JALカーゴサービスによるハンドリング授業においては、空港業務に関する最新の取り組みや実務情報を基に、学生の空港知識の深化を促進し、学期末には学習成果の評価を実施し、教育効果の検証を行っている。大手航空会社が推奨する日本マナー・プロトコール協会による国際標準のマナー教育では、テーブルマナーをはじめとする国際的なマナーの習得によるグローバル人財の育成を図っている。

(3)具体的な連携の例※科目数については代表的な5科目について記載。

科 目 名	科 目 概 要	連携企業等
コミュニケーションスキ ル(マナー・プロトコー ル)	国際的なグローバルなマナーの理解を深め、コミュニケーション能力・表現力の向上を図る実習授業	日本マナー・プロトコール協会
航空サービス実習(エ アポートハンドリング)	空港内に於ける多種多様にわたる最新の取り組みや情報 を基に空港知識の向上を図る実習授業	スカイマーク
	到着便から出発便までのグランドハンドリングの仕事を理解し一般的な基礎知識を学ぶ実習授業	JALグランドサービス
アポロ実習(国際航空 貨物取扱士)	国際航空貨物取扱士(IATAディプロマ)資格基礎コース取得を目指すための実習授業	JALカーゴサービス

3. 「企業等と連携して、教員に対し、専攻分野における実務に関する研修を組織的に行っていること。」関係

(1)推薦学科の教員に対する研修・研究(以下「研修等」という。)の基本方針

※研修等を教員に受講させることについて諸規程に定められていることを明記

①専門分野における実務に関する研修

就業規則ならびに教務規定に定められたとおり、学科を指導する立場の教員として、常に業界の動向に目を向け、専門知識やスキルを体得するを目的に、業界団体等他の機関により実施される研修に参加することとする。この研修は年に一度、原則として6月に実施している。

②指導力の修得・向上のための研修

就業規則ならびに教務規定に定められたとおり、学生を指導する立場の教員として、学生に対する指導力の修得・向上のための研修に参加する。

上記①及び②の研修は、勤務年数、業界経験年数にかかわらず、特段の理由がない限り参加しなければならない。

(2)研修等の実績

①専攻分野における実務に関する研修等

研修名: グランドスタッフ研修 連携企業等: JALスカイ大阪

期間: 令和6年10月23日 対象: 教員および学生

内容グランドスタッフの仕事を現場での実習授業

研修名: グランドハンドリング研修 連携企業等: JALグランドサービス大阪

期間: 令和6年10月23日 対象: 教員および学生

内容グランドハンドリングの仕事を現場での実習授業

研修名: 国際航空貨物取扱い研修 連携企業等: JALカーゴサービス

期間: 令和6年10月1日 対象: 教員および学生

内容 国際航空貨物の取扱いを現場にて直接の実習授業

②指導力の修得・向上のための研修等

研修名: 教育現場におけるコーチング 連携企業等: 日本スクールコーチ協会

期間: 令和6年6月5日 15:30~17:00 対象: 全教職員

内容 コーチングの基本となる考え方を学び、教育現場での学生への活用をのし方を学んだ。

(3)研修等の計画

①専攻分野における実務に関する研修等

研修名: スカイマーク地上研修 連携企業等: スカイマーク株式会社

期間: 令和7年9月18日 11:00~13:00 対象: 教員および学生

内容 地上旅客職の業務内容を新千歳空港にて実習授業

研修名: サービス実習(グランドスタッフ) 連携企業等: スカイマーク株式会社

期間: 令和7年10月7日 11:00~12:30 対象: 教員および学生

内容グランドスタッフの仕事を現場のスタッフから学ぶ実習授業

研修名: サービス実習(キャビンアテンダント) 連携企業等: スカイマーク株式会社

期間: 令和7年10月14日 11:00~12:30 対象: 教員および学生

内容キャビンアテンダントの仕事を現場のスタッフから学ぶ実習授業

②指導力の修得・向上のための研修等

研修名: アカデミックハラスメント研修 連携企業等: NPOアカデミックハラスメントをなくすネットワーク

期間: 令和7年12月 対象: 全教職員

内容
アカデミックハラスメントの事例をもとに、学生とのコミュニケーション方法や学内での報告体制づくりなどア

カハラ防止に向けた対応を学ぶ。

4. 「学校教育法施行規則第189条において準用する同規則第67条に定める評価を行い、その結果を公表していること。 また、評価を行うに当たっては、当該専修学校の関係者として企業等の役員又は職員を参画させていること。」関係

(1)学校関係者評価の基本方針

教育目標に従った人材育成ができているか、あるいはその教育目標を学科の指針として具体的に展開できているか、関連 業界、卒業生を対象として、自己評価の結果にそって説明をすることで、教育目的、教育方法・内容、ガバナンスの3つの柱 を基本とした運営面を評価いただく。

(2)「専修学校における学校評価ガイドライン」の項目との対応

	一大日こり/1/0
ガイドラインの評価項目	学校が設定する評価項目
(1)教育理念・目標	学校の理念・目的・育成人材像は定められているか、など
(2)学校運営	目的に沿った運営方針が策定されているか、など
(3)教育活動	教育課程に沿った教育課程の編成・実施方針等が策定されているか、など
(4)学修成果	就職率の向上が図られているか、など
(5)学生支援	進路・就職に関する支援体制は整備されているか、など
(6)教育環境	施設・設備は、教育上の必要性に十分対応できるように整備されているか、など
(7)学生の受入れ募集	募集活動は適正に行われているか、など
(8)財務	中長期的に財政基盤は安定しているか、など
(9)法令等の遵守	法令、専修学校設置基準の遵守と適正な運営がなされているか、など
(10)社会貢献・地域貢献	学生のボランティアを奨励、支援しているか、など
(11)国際交流	留学生の受け入れ、派遣について戦略的に行っているか、など

^{※(10)}及び(11)については任意記載。

英語力の強化が必要との助言を受け、TOEICやエアラインイングリッシュなどの段階構成の語学教育を導入している。また、目標達成を促すための高スコア達成目標の設定や、多数講師による学びの支え体制の検討など、他専門学校の成功モデルを参考にしながら、英語教育の実務対応力と体系性の向上に取り組んでいる。

(4)学校関係者評価委員会の全委員の名簿

名 前	所 属	任期	種別
高木 友子		令和6年4月1日~令和8年3月 31日(2年)	協会役員
野口 幸一		令和6年4月1日~令和8年3月 31日(2年)	協会役員
		令和6年4月1日~令和8年3月 31日(2年)	協会役員
西田 篤史		令和6年4月1日~令和8年3月 31日(2年)	企業役員
小林 隆		令和6年4月1日~令和8年3月 31日(2年)	企業役員
米倉 洲		令和6年4月1日~令和8年3月 31日(2年)	卒業生

))

※委員の種別の欄には、学校関係者評価委員として選出された理由となる属性を記載すること。

(例)企業等委員、PTA、卒業生等

(5)学校関係者評価結果の公表方法・公表時期

(ホームページ・)広報誌等の刊行物・ その他(

URL: https://www.tit.ac.jp/about/disclosure.html

公表時期: 令和7年9月1日

⁽³⁾学校関係者評価結果の活用状況

- 5.「企業等との連携及び協力の推進に資するため、企業等に対し、当該専修学校の教育活動その他の学校運営の状況に 関する情報を提供していること。」関係
- (1)企業等の学校関係者に対する情報提供の基本方針

企業が求める、時代に即した人材を育成するための課題やニーズを共有し、学校の実践的な職業教育にかかる活動を評 価・改善する中で、質の高い職業教育を行っていくために、広く雇用側の企業、関係団体、自治体等に向けて公表していく <u>ものとする。</u> (2)「専門学校における情報<u>提供等への取組に関するガイドライン」の項目との対応</u>

4 7 000 11 7 12 340 XH C407370
学校が設定する項目
学科の特性や具体的な目標及び計画が設定されているか、など
上記の目標にそったカリキュラムになっているか、など
教職員として学生対応の資質向上にあたっているか、など
企業と連携した授業を体系的に取り入れているか、など
施設・設備は、教育上の必要性に十分対応できるように整備されているか、など
進路・就職に関する支援体制は整備されているか、など
適正に行われているか、など
財政基盤は安定しているか、など
設置基準の遵守と適正な運営がなされているか、など
留学生の受け入れ、派遣について戦略的に行っているか、など
学生のボランティアを奨励、支援しているか、など

※(10)及び(11)については任意記載。

(3)情報提供方法

(ホームページ・)広報誌等の刊行物・ その他(

))

URL: https://www.tit.ac.jp/about/disclosure.html 令和7年9月1日

公表時期:

授業科目等の概要

	#RE	F!														
		分類	į						授	業プ		場	所	教	員	
		選択必修	由	授業科目名	授業科目概要	配当年次・当	授業時	単位	講	演	実験・実習		校			企業等とのは
	修	修	択			学期	数	数	義	習	· 実 技	内	外	任	任	連携
1	0			就職対策	就職活動に必要な筆記試験・表現力・文章 力の向上を図る	1 後 2 前	64	4	0			0		0		
2	0			ビ ジ ネ ス マ ナー	社会人としての基本的なマナーを学ぶ	1前2後	64	4	0			0		0		
3	0			航空業界就職 対策(空港対 策知識)	航空業界に必要な就職活動の基本的なスキ ルを学ぶ	1 前 2 前	96	6	0			0		0		0
4	0			コミュニケー ションスキル (マナー・プ ロトコール)	日本マナー・プロトコール協会と連携した 実習授業により、グローバルなマナーやコ ミュニケーション、表現力の向上を図る	1 通 2 前	96	6			0	0		0		0
5	0			卒業制作	2年間学んだことを活かし、業界に向けて新 しい提案をまとめ発表する	2 後	96	6	0			0		0		
6	0			航空業界研究 (グラハン知 識)	業界の知識を身に付ける	1通2前	96	6	0			0		0		0
7	0			英会話	英語のヒアリング・リスニングを身に付け る	1通2通	##	8	0			0		0		
8	0			英語検定特別 講習	英語検定合格のスキルアップを図る	1通	96	6	0			0			0	
9	0			接客英語	接客に必要な英会話を習得する	1前2後	96	6	0			0			0	
10	0			アクセス実習	航空予約システムのスキルを習得する	1 前後	##	8	0			0			0	
11	0			英検対策& TOEIC	英語検定とTOEICのスコア向上を図る	1 通 2 通	##	16	0			0			0	
12	0			教養知識	一般教養知識を習得する	1 通 2 前	##	12	0			0		0		

13	0		航空英語 (エアライン イ ン グ リ ッ シュ)	航空業界で必要な英会話を習得する	1 後 2 前	96	6	0		0			0	
14	0		ビューティス タディー	業界が求める身だしなみのスキルを学ぶ	1 通	64	4		0	0			0	
15	0		スキルアップ	業界が求める、必要なスキル向上を図る	2 前	32	2	0		0			0	
16	0		PC実習	パソコン操作の基本を習得する	2 通	64	4		0	0		0		
17	0		手話	手話で会話する基本を習得する	2 通	64	4		0	0			0	
18	0			航空業界に必要なサービスの実習を実施し 必要なスキルを習得する	1 通	64	4	0		0			0	0
19		0	海外旅行知識	海外旅行に関する知識を習得する	1 前	32	2	0		0		0		
20		0	英語検定補修	英語検定対策の補講	1 通	96	6	0		0			0	
21		0	海外観光地理	海外観光地の知識を習得する	1 後 2 前	##	8	0		0		0		
22		0	添乗業務	旅行添乗員としての知識を習得する	1 後 2 前	64	4	0		0		0		
23		0	ユニバーサル ホスピタリ ティ	社会人としての応用的な接客・マナーを学 ぶ	1通	64	4	0		0		0		
24		0	海外研修旅行	海外研修によりグローバルな知識を身に付ける ける	1後2後	64	4	0			0	0		
25		0	中国語	中国語の基本を学ぶ	2 通	64	4	0		0			0	
26		0	韓国語	韓国語の基本を学ぶ	2 通	64	4	0		0			0	
27		0	アポロ実習 (国際航空貨 物取扱士)	航空機予約システムを習得する	2 前	32	2		0	0			0	

28				AXESS実習 国内1級	航空予約システム検定の国内1級資格取得を 目指す	2 前	32	2	0		0		0
29			0	AXESS実習 国際2級	航空予約システム検定の国際2級資格取得を 目指す	2 前	32	2	0		0		0
30			0	ホテル概論	ホテル業界の知識を学ぶ	2 通	64	4	0		0		0
31			0	国内旅行知識	国内観光地の知識を習得する	1 前	32	2	0		0		0
	合計 31 科目 2560 単位(単位時間)												

卒業要件及び履修方法	授業期間等	
卒業要件: 108単位以上を取得。その内必修科目は90単位以上取得しなければな	1 学年の学期区分	2 期
履修方法: 自由選択科目は1回目の授業開始前までに希望をとる	1 学期の授業期間	16 週

(留意事項)

- 1 一の授業科目について、講義、演習、実験、実習又は実技のうち二以上の方法の併用により行う場合については、主たる方法について○を付し、その他の方法について△を付すこと。
- 2 企業等との連携については、実施要項の3(3)の要件に該当する授業科目について〇を付すこと。